<table>
<tr><td colspan="5">新潟市教育委員会　令和7年1月　定例会会議録</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="4">令和7年1月29日(水)　午前10時00分</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="4">新潟市役所　ふるまち庁舎　4階　教育会議室1</td></tr>
<tr><td>教育長</td><td>夏　目　　久　義</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">出席委員
(8名)</td><td>齋　藤　　昭　彦</td><td rowspan="3">出席委員</td><td colspan="2">神　林　　むつみ</td></tr>
<tr><td>乙　川　　千　香</td><td colspan="2">小　見　　直　樹</td></tr>
<tr><td>中津川　　英　子</td><td colspan="2">渡　部　　雄一郎</td></tr>
<tr><td>畠　山　　典　子</td><td rowspan="2">欠席委員</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>石　坂　　学</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="12">会議出席
教育委員会
事務局職員
(9名)</td><td colspan="2">職・氏　名</td><td colspan="2">職・氏　名</td></tr>
<tr><td>教　育　次　長</td><td>丸　山　　明　生</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教　育　次　長</td><td>山　本　　正　雄</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育総務課長</td><td>渡　辺　　和　則</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>施　設　課　長</td><td>石　川　　淑　朗</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>保健給食課長</td><td>袖　山　　直　也</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学校人事課長</td><td>山　本　　郁　雄</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学校支援課長</td><td>三　條　　貴　之</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>特別支援教育課長</td><td>五十嵐　　重行</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育総務課補佐</td><td>相　崎　　敦　子</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>他部署
出席者(0名)</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

開会	時　刻	午前 10 時 00 分
	宣 言 者	教育長
付議事件 （1 件）	議案第 23 号	教職員の人事措置について
報告 （2 件）	全国学力・学習状況調査の結果を受けた次年度の方向性について	
	令和 7 年度当初予算について	

第1　開会宣言

○教育長　　午前 10 時 00 分　開会を宣言する。

これより、令和 7 年 1 月新潟市教育委員会定例会を開催いたします。

本日の報道はありませんが、会議中に、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありましたら、これを許可することにご異議ありませんでしょうか。

（異議なし）

それでは、許可することといたします。

会議録署名委員の指名

○教育長　　日程第 1「会議録署名委員の指名」を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条により、会議録署名委員に小見委員及び渡部委員を指名します。

第2　付議事件

○教育長　　次に、日程第 2 付議事件に入ります。はじめに、議案第 23 号教職員の人事措置については、人事案件であることから非公開としたいと思いますが、ご異議はございませんでしょうか。

（異議なし）

それでは、公開案件の終了後に公開案件として再開し、審議をいたします。

次に、日程第 3 報告に入ります。

第3　報告

○教育長　　はじめに、全国学力・学習状況調査の結果を受けた次年度の方向性について、学校支援課から説明いたします。

○学校支援課長　　学校支援課です。9 月定例会でご説明しました、全国学力・学習状況調査を受けて、政策指標や教科指導に係る取組の成果と課題、そして分析と今後の予定を報告させていただきます。

本調査の「児童生徒質問紙」、「学校質問紙」、各教科の正答率などから、政策指標や「学校園教育の推進」における目標の達成に関する内容について、GIAGスクール運営支援センターの協力を得て、252 組の項目を抽出して分析を行いました。

また、新たに各校の正答率を経年で捉え、その伸びを算出し、正答率との関係性を分析しました。

それではまず報告 2 ページ、「4 成果や改善点等の整理や検討」と、報告 7 ページ以降の資料を用いて 5 つの指標についてご説明させていただきます。

1 つ目の指標「自分にはよいところがあると思う」では、小中学校ともに教師が児童生徒のよいところを認めることとの関連が見られました。

報告 7 ページ、資料①-1 をご覧ください。児童生徒は、縦にある、「自分にはよいところがあると思う」という設問に対して、当てはまる、当てはまらないなどの 4 択で回答します。その回答別に、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」をクロス集計いたしました。その結果、自分にはよいところがあると思う児童生徒ほど、青で示した、「教師がよいところを認めてくれて

いると思う」と回答している割合が高くなっています。教師が児童生徒理解を深め、子どものよさに目を向けて信頼関係を結ぶことが大切であると改めて確認できました。

今後、改訂を進めている「授業づくりサポート」。このような冊子ですが、これは先生方のタブレットにも入っているもので、これに子どものよさの見つけ方、褒め方、認め方を具体として加えていきたいと思っています。

次に、資料①-2 の三重クロス集計をご覧ください。青で示したのは、個別最適な学びと協働的な学びの両方に取り組んでいる、個○協○であることを示しています。このように子どもたちを 4 つのグループに分けて、「自分にはよいところがあると思う」との、回答状況とその関連を解析しました。

よいところがあると思っている児童生徒ほど、個○協○の両方に取り組んでいることが分かります。

また、報告 10 ページの参考資料をご覧ください。これは個別最適な学び、協働的な学びに関わっているため、参考としてお伝えいたします。

「学校へ行くのは楽しい」や、「国語や算数・数学の勉強は好きだ」と思っている児童生徒ほど、個別最適な学び、協働的な学びの両方に取り組んでいる割合が高く、三重クロス集計により、片方だけではなくこの両方に取り組むことが重要であると確認できました。

そこで、当課では個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られるよう、授業での具体的なイメージを持つための動画を作成し、小中学校の校長会や、研究主任マネジメント研修で視聴してもらうようにいたします。その後、タブレット端末から全教職員が視聴できるように整備を進めてまいります。

2 つ目の指標「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に対しては、小中学校ともに、総合的な学習の時間や学級会など、特別活動、学級活動の充実との関連が見られました。

報告 8 ページの資料②-1 をご覧ください。自分で学び方を考えて工夫することができる児童生徒ほど、総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集めて整理し、調べたことを発表するなどの探求のプロセスを大切にした学びに取り組んでいました。

また、グラフにはありませんが、学級活動の生活問題を議題にした話し合いの経験を積んでいるということも分かりました。さらに、同じページ下の資料②-2 三重クロス集計は、自分で学びを工夫できるといった、個別最適な学びの充実について、学校質問紙の「学習指導において、児童生徒一人一人に応じて学習課題や活動を工夫することをどの程度行いましたか」への学校からの回答と、児童生徒質問紙の「授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか」との子どもたちの回答との相関を調べたグラフです。この結果から、子どもが自分でテーマや課題を選び、自分で自己調整しながら追究する個別最適な学びを、先生方が意図的、計画的に実施することで、子どもを自立的・主体的な学習者にしていくことが分かります。

今後、学級活動や総合的な学習の時間について好事例を紹介したり、先ほど説明したイメージ動画を活用したりして、授業改善が図られるよう学校を支援してまいります。

3 つ目の指標「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問との関連が見られました。

報告9ページの資料③をご覧ください。この三重クロス集計の分析からは、人が困っているときは、進んで助けていると答えている児童生徒ほど、その学校の教師が特別支援教育を理解し、一人一人に合った個別最適な指導の工夫をしていることが分かりました。

これまで、当課と特別支援教育課とで学校訪問を行い、特別支援教育の理解が図られてきた成果と捉え、改訂を進めております「授業づくりサポート」にユニバーサルデザインの視点を加えていくよう検討しています。

資料での説明はここまでとなりますが、報告 3 にお戻りください。上段の 4 つ目の指標「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」では、協働的な学びや、学級会での話し合いの経験との相関、また、総合的な学習の時間の充実との関連も見られました。課題発見力や情報活用能力等がこの指標の達成に関係すると言えます。

5 つ目の指標「コンピューターなどのICTをどの程度使用したか」については、小学校 97%、中学校 98.7% が、週に 3 回以上の使用を達成しています。今後は、自ら学ぶ自立した学習者を育むために、どの場面でどのように使用することがより効果的であるかという視点で検証してまいります。

最後に、「(2)学校の取組状況について」です。各校の国語と算数・数学の平均正答率が、過年度と比較してどれくらい伸びたかを調べ、正答率との関係性を分析しました。その結果、報告3ページ下の図1に示したように、正答率と伸びとは一致しないことが分かりました。図の左側は学力を平均正答率の数値で区切り、色別で示しました。オレンジが高く、赤が低いことを示しています。右側には過年度と比較しての伸びを順に表しました。オレンジで示した学校でも伸びは上位に固まらずに散らばっています。反対に、正答率が赤・青・緑の学校でも、伸びは上位にある学校もあります。このように、正答率が高い、低いにかかわらず、自校の正答率を伸ばし続けている学校が複数校ありました。

今後は、一律に新潟市・県・全国の平均との比較からその差が大きいことのみを学校課題とするのではなく、学校が育てたい資質・能力に対して経年で比較する視点が必要であることを各校に伝えていきます。

その際、すでにこの視点で取り組んでいる学校の好事例なども紹介し、発信していきたいと思います。

報告 4 ページには、今ほど説明した今後の当課としての取組の方向性をまとめました。ご確認いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○教育長　ただいまの説明にご質問やご意見がありましたらお願いします。

○畠山委員	説明いただいたとおり、政策指標や「学校園教育の推進」に掲げる目標の達成に関連しそうな内容ということで、これは子どもたちの力を伸ばしていく、学校の取組をより確かなものにしていくために、大変大切なことだと思いますし、クロス集計のようなデータ結果がないと、学校ではなかなか相関関係が掴めないところで、それをしようと思ってもなかなかできないものです。それをこのようにクロス集計して、結果を出して、学びにつながる動画をまた発信していくということは、新潟市の子どもたち、それから学校の取組の充実につながっていくということで、大変大切で重要なことと見させていただきました。 それで質問なのですが、報告２の学校の取組状況についてのところで、小学校は、令和４年度と６年度、中学校は令和５年度と６年度の比較となっているのですが、その辺の違いというのはどういうところからなのでしょうか。
○学校支援課長	中学校で言いますと教科担当制を用いておりますので、担任による教科や指導に対する違いはないということで、伸び率としては、1 年でも何年見たとしても、あまり変わらないのではないかなという想定でまず考えました。 小学校の場合だと、ある特定の担任という見方ではなくて、ちょっと長い期間を見た中で、いろいろな先生が関わった子どもたちが最終的に６年生という段階では、どういうものになったかということで、試してみたところで、中学校は 1 年間としましたし、小学校は２年としましたが、あまりそこには差はないなと見ているところでございます。今回はそういった試験的に取り組んだというところでございます。
○畠山委員	分かりました。ありがとうございます。
○教育長	他にございますでしょうか。
○中津川委員	今回データを基に分析されまして、また今後も動画を作るなど発信なさって、授業改善の取組を図られるということで、本当にありがたいと思っております。 学校の取組状況についても、今後新たな視点が入ってくるということなのですけれども、もちろん学習の定着に向けては授業もさることながら、個人の家庭での勉強というのが、学習の定着には不可欠なわけで、ただし、自主学習、家庭学習と言われても、何をどう勉強したらよいのか分からない、迷ってしまうような子どもたちもいるかと思います。それで、例えば課題の出し方ですとか、家庭学習への丁寧な手厚いサポートというのも、今後学校の方に図っていただければなと思っております。 それからもう 1 点。先ほど、実験的な視点で比較とおっしゃっていたのですけれども、例えば、現在の中学３年生が小学６年生のときの調査結果と比較するような、その辺というのも見ていらっしゃるということでしょうか。
○学校支援課長	9 月の段階で経年による変化というのもお示ししたように、私たちも小 6 の時点と、中学校に入った時点を比べてはいます。一概に下がったから悪いと言いにくいこともあるのですけれども、やはりそういった状況も踏まえて、もう少し我々からできることはないかということも検討はしております。
○中津川委員	ありがとうございます。6 年から中 3 に至るまでの過程というか、新たな相関関

係というのも見えてくるかと思いますので、その辺もよろしくお願いいたします。

○教育長　他にございますでしょうか。

○齋藤委員　教えていただきたいのですが、例として、資料３ で、「人が困っているときは、進んで助けている」。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の割合が示されていますが、この全体の絶対数は、他にデータとして示されていますか。

○学校支援課長　９月に示したところに出ています。

○齋藤委員　了解いたしました。そうすると、これはあくまで相対的な割合なので、例えば、「当てはまらない」のところの半分が、特別支援教育と個別最適な学びの両方に取り組んでいて、そして、残りの半分が特別支援教育は取り組んだが、個別最適な学びには取り組んでいない。この解釈は困難です。この項目を選んだ方の絶対数はかなり少ないと考えられ、絶対数は併記されるべきと思いました。ご説明ありがとうございました。

○学校支援課長　ありがとうございました。

○教育長　他にございますでしょうか。

○石坂委員　質問です。まず、報告５の三重クロス集計の、「個別最適」と「協働的」と「自分によいところがあると思う」というこのクロス集計の質問項目は、どんな項目を基にされて、個別最適な学びがどうだったのか、協働的な学びがどうだったのか、それから、自分によいところがあると思うというのは質問紙の中にありましたのでOKですけれども、この部分はどの指標を使われたのかということをお伺いしたいと思います。

○学校支援課長　ありがとうございます。その部分については説明を省かせてもらったところもございましたのでお答えします。個別最適な学びということについては、先ほど出てきた内容もあるのですけれども、「授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか」という子どもたちへの質問です。

協働的な学びというのがどこにも触れられていなかったと思うので、協働的な学びについては、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という児童生徒への質問紙となっています。

○石坂委員　はい、ありがとうございました。この資料をそのまま学校に出すことはないのかもしれませんけれども、どういう質問紙からこれを引っ張ってきたのかということは、やはり資料としては必要かなと感じました。

今の説明でよく分かりましたけれども、他のところについても、もし他へ示す場合はこういう質問紙からもってきました、ということを明確にしていただければいいかなと思います。

それからもう１点です。これ質問ではなくていいなと思うところです。報告３の(2)、１番下のところに、過去と今を比較しているのはとても大事だと、その学校の中で去年はこうだったけれども、今年こういう取組をして、今年こんな風に変わったということが大事で、これを市としてこれから重視していきますよ、というこ

とが述べられているのですけれども、この視点はとても大事なことでいいことだと思います。

特に、その視点の中に自校の教育目標とか、それからこの 1 年、これに力を入れようという重点目標というのを決めている学校が多いかと思うのですけれども、教育目標や重点目標が達成できているのかどうか、この 1 年の取組をどう進めていくのかということを、それぞれ明確に宣言をして、そして教育活動に 1 年間取り組む。そしてその成果をどの指標で見るのか、ここも十分に各校から考えていただいて実践を進めるように、またご支援いただければと思います。各校にとってこれもやってください、あれもやってください、という見え方になると、非常に煩雑な感じがして大変なのですけれども、重点目標とか教育目標というのは、その学校が目指す方向性を明確に示していますので、それとこの 1 年という関わりになっている。そして伸びはこれで見られる。私たちはこうやって実践していくのです。これを先生方が共有して、1 年間取り組んでいけるような方向というのはとても大事なことだと思うし、大きな力がつくように思います。

ぜひ、この視点での取組を進めていただくのは、各校にとって本当にありがたいのかなと思います。ぜひよろしくお願いします。

○教育長　他にございますでしょうか。

○小見委員　非常に細やかな分析、クロス集計をされながら取り組んでおられるということで、これによってこれまでの取組を検証したり、あるいは今後のあるべき方向性を打ち出していくと、非常によい取組というか具体的な分析だと思っています。

一方で、今、教育ビジョンを策定されていて、おそらくそのビジョンそのものは大きな方向性としてベクトルを示す内容なので齟齬はないと思うのですが、実施計画の中身とこの結果にぶれがあったりすると、一貫した方針が分かりづらくなるので、その辺の実施計画との関係性というのを 1 回検証してみるというのも、もう策定してしまったのかもしれませんけれども、そこは念のため紐解いておいた方がいいのではないかと思いました。

○学校支援課長　ありがとうございます。

○教育長　他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。よろしければ次に進みます。次の、令和7年分当初予算については、公表前であることから非公開としたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

（異議なし）

それでは公開案件の終了後に非公開案件として再開し、審議いたします。

続いて日程第 4 次回日程について、教育総務課から説明をお願いします。

第 4　次回日程

○教育総務課長　2 月の定例会でございますが、2 月 12 日、水曜日、時間は午前 10 時 30 分を予定しております。よろしくお願いいたします。

第 5　公開終了

○教育長　以上で今回案件を終了とします。これより定例会を非公開といたします。

第 6　定例会（非公開）　付議事件

第７　定例会（非公開）　報告

第８　閉会

〇教育長　　これで定例会を閉会します。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

小見直樹

署名委員

渡部雄一郎